

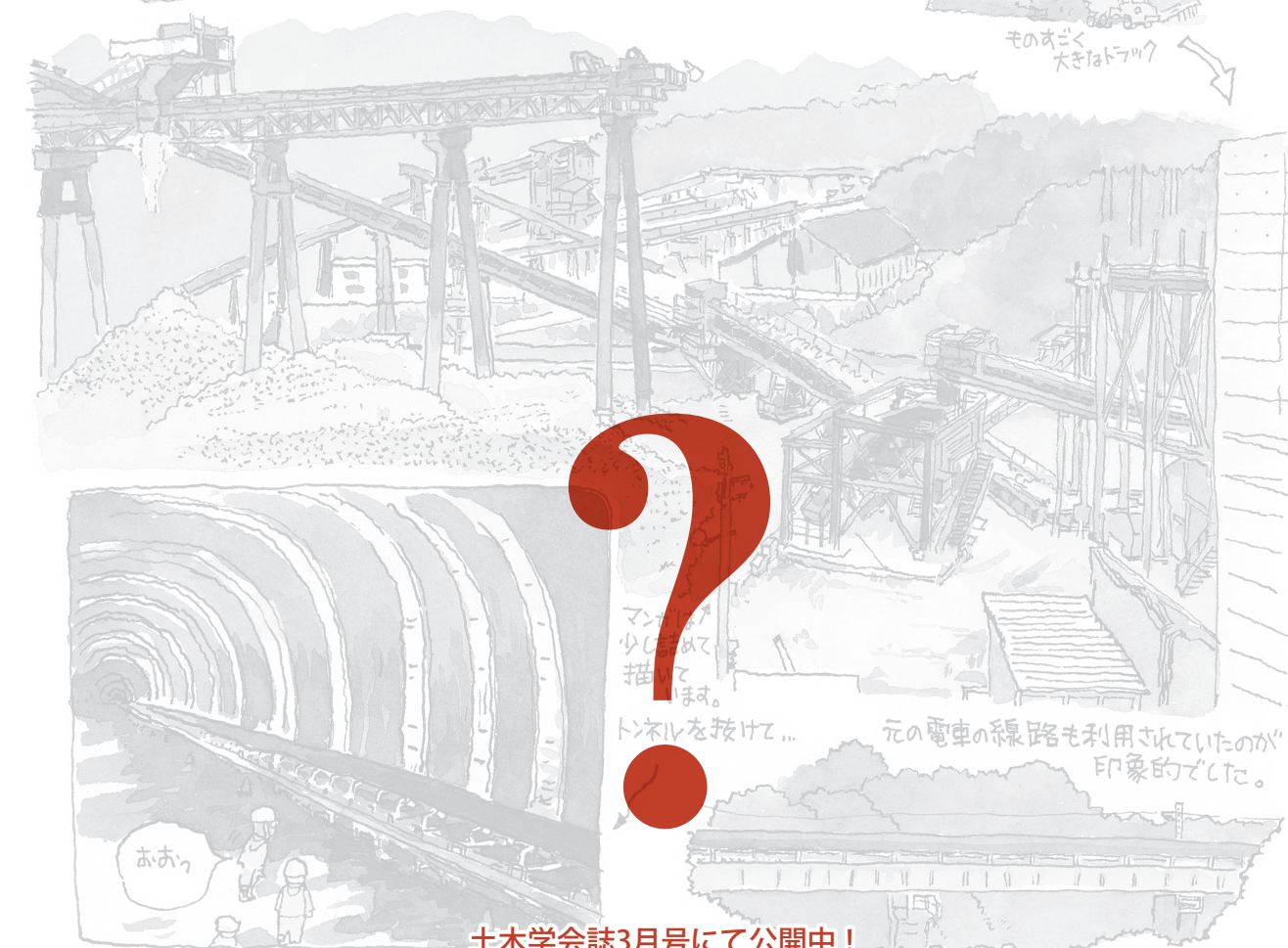
建設中のハツ場ダム (その2)

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です！

【絵】モリナガ・ヨウ／【文】溝渕 利明



骨材は、おこし集めた山から集めて、長大なベルトコンベアで運ばれていました。



マンマ、少しおどろく描いてます。

トンネルを抜けて...

元の電車の線路も利用されていたのが印象的でした。

土木学会誌3月号にて公開中！

前

前回に引き続き、今回もハツ場ダム堤体工事について紹介していきます。ハツ場ダムのような重力式コンクリートダムの場合、ダムの表面付近に用いる外部配合（耐久性、水密性の高いコンクリート）、ダムの内側に用いられる内部配合（ダムが水圧で動かないように重しとなるコンクリート）および監査廊などの周りに用いられる構造物配合の三つに大別されます。

柱状施工のようなかつてのダム堤体の工事では、この三つの配合を切り替えながらブロック状（柱状）に施工していたので、堤体工事だけで10年近くかかっていました。RCD工法のような拡張レア工法が行われるようになって工期は大幅に短縮されましたが、配合を切り替えながらの施工は変わらず、重機を最大限に活用した施工となっていました。ハツ場ダムでは、配合切り替えを極力少なくしたRCD工法の進化形である巡航RCD工法を採用し、堤体コンクリートの施工をさらに短縮する予定です。また、コンクリートの運搬も従来はタンクやバケットで行っていましたが、ここでは管の中ならせん羽がついていて大量に連続して輸送ができるSP-TOM（第一回目で絵の中央の管のようなもの）という設備を用いています。

ハツ場ダムでは、コンクリートに用いる骨材の原料となる岩石を採取する原石山から骨材製造設備までをベルトコンベアで約10km運搬しており、当初計画だった1日220台のタンクの往来を省くことができ、安全で安定した骨材供給を実現しています。



ダムの建設現場に行くとしてもダム本体ばかり見てしまいがちですが、その周辺にも見所はいっぱいあります。たとえば、骨材製造設備では巨大な円筒がグルグル回っていたり、スクリーナーで砂をかき上げていたり、不思議な機械がたくさん並んでいます。また、ダムの建設は街中の工事と違ってスケールが半端ないほど大きいのです。これは、実際に現場に立つてみないとなかなか実感できないかもしれません。

完成したコンクリートダムを見るとただのコンクリートの塊のように見えますが、内部には縦横に点検のための監査廊というトンネルが張り巡らされています。昔は、現場で型枠を組んでいたのですが、最近では省力化のためにプレキャスト製品を用いているダムが増えていきます。

最近のダムの見学（建設中も完成後も）で楽しみなのは、ダムカレードムカードです。ダムカレードムカードは、全国に数十種類もあって日本ダムカレードム協会なるものも設立されているようです。ダムカードも一つのダムで建設中から完成後まで何種類も出していて、なかにはレアなカードもあるそうです。ダムカードの本まで出版されているので、皆さんも集めてみてはどうでしょうか。（溝渕利明 法政大学）

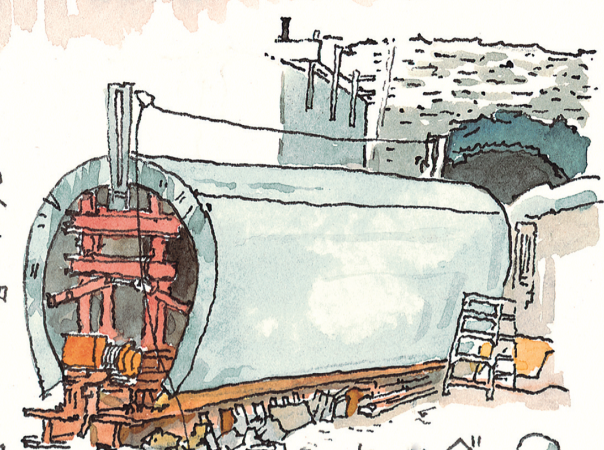


☆とにかく大規模で描きたいことはいっぱいあります。

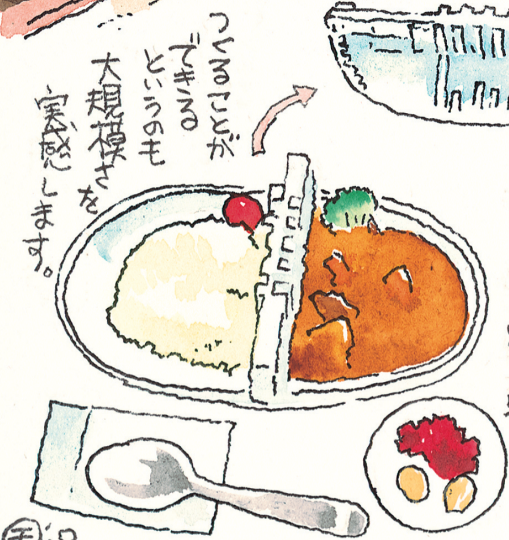
骨材を送るベルトコンベアはこんな感じで無限に続いてました。

道の駅ハツ場ふるさと館のダムカレー。

ダム本体がどしゃどしゃと、シャワーで洗われる意外。とはいえない焼き物を。



ダムが完成したあと、内部に点検通路がはいるのですが、はじめてみる埋めてくみたい。知らなかった！



このカレーが、どしゃどしゃと洗われる。大規模な、実感します。

©18